



「信州諏訪湖へ続くとされる 清水湧き出る鍾乳洞」

諏訪の水穴（別名 しんせんどう 神仙洞）は、緑豊かな自然に囲まれた清水が湧き出る しょうにゅうどう 鍾乳洞です。この一帯は石灰石が分布しており、鍾乳洞が形成しやすい場所でもあります。諏訪の水穴は、東穴と西穴があり、東穴の入口は底辺 2.5 m、高さが 1.8 m でほぼ三角形の形をしており、奥行き 15 m ほどまでは立ったまま進むことができ、内部で しょうにゅうせき 鍾乳石や せきじゆん 石筍なども確認できます。

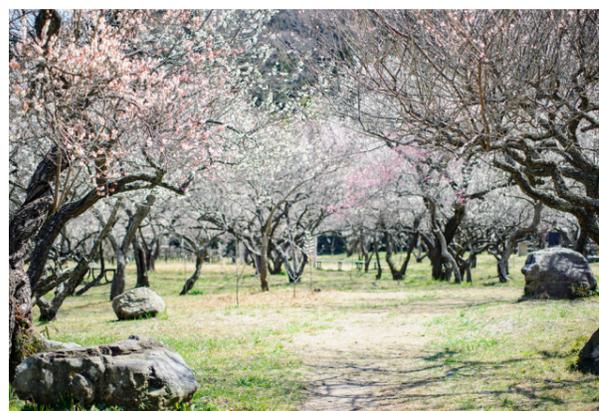
この水穴には「1249～1255（建長年間）年の頃、信州諏訪大社（現在の長野県諏訪市）の神人で、諏訪町にある諏訪神社の神官となつた まんねんだゆう 万年大夫藤原高利が、この地に起こる災害は信州諏訪湖に通じるとされる水穴が関係すると聞き、この水穴を調べることにし、万が一のことを考え夫婦像を刻み、決死の覚悟で水穴に入ったが、再び帰らなかった」という伝説があります。

1690（元禄3）年に水戸藩第2代藩主徳川光圀が諏訪神社に奉納したとされる神像の背部に「夫婦像が腐朽していたため、新たに2像をつくらせて体内に蔵した」と刻まれており、1973（昭和48）年の調査の際に、光圀の命によって作られたこれら2像の体内から、伝説で伝わる藤原高利が自ら彫刻した古い夫婦像が見つかりました。

新旧4体の像を「もくぞうまんねんだゆうふうふざざう 木造万年大夫夫婦坐像」といい、1974（昭和49）年に茨城県の指定文化財に指定されました。現在、この夫婦坐像は日立市郷土博物館にて常設展示されるとともに大切に保存されています。



この水穴の中に徳川光圀も入り、奥にある「三の戸」と呼ばれる場所に「これより奥には入らぬように」と記したと伝えられています。



諏訪の水穴の近くを流れる鮎川沿いには、水戸藩第9代藩主徳川斉昭（烈公）が造営させたといわれる「諏訪梅林」があります。梅林内には約300本の梅が植えられ、たくさんの方が訪れる憩いの場となっています。



提供：日立市郷土博物館

前列の2像が藤原高利が刻み残した像、後列の2像が光圀の命によって作られた像です。光圀奉納の夫像は像高 60cm・坐幅 49cm、婦像は像高 51cm・坐幅 49cm で、藤原高利が残した夫像は像高 27.5cm・坐幅 21.5cm、婦像は像高 23.5cm・坐幅 19cm となります。

<基本情報>

【所在地】日立市諏訪町地内

【出典等】

- ・日立市史編さん委員会『新修 日立市史 上下巻』、日立市、1994
- ・日立市郷土博物館『日立市民文化遺産ガイドブック』、日立市郷土博物館、2014
- ・茨城県教育委員会 HP『県指定文化財（彫刻）』<https://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/bunkazai/ken/tyokoku/3-109/3-109.html>（2021/1/26）
- ・日立市郷土博物館 HP『日立市指定文化財』<https://www.city.hitachi.lg.jp/museum/page/bunnkazai.html>（2021/1/26）
- ・環境を守る日立市民会議諏訪の水穴復元記念協賛会『説明版』